

日本健康福祉政策学会 オープンセミナー

“地域づくり”を目指した健康福祉の 活動ってどんな活動??

健康なまちづくり支援ネットワーク

岩永 俊博

本日は、自分たちの進めている活動や事業が「地域づくり」を目指しているといえるかどうか、あるいは、「地域づくり」を目指すためには今後どのようにすればいいか、そういうことへの回答を探すツールについて、問題提起をしたいと思います。

私たちも、そのようなツールが大切だとは思いますが、実際の事例を前に、核心的な部分の周りを確認し合っている状況なので、本日の問題提起を受けて、いろいろと御意見やアイデアを出していただければありがたいと思います。

もちろん、今日の経験だけで、すぐにわかったとか、わからないというものでもないので、経験を積み重ねる過程でだんだん「そういうことか!」と感得いただければいいかと思っています。

本日の予定

- 1) 「私たちの活動は地域づくりになっている?」「私たちはいい活動してる?」などの疑問への問題提起。
- 2) 提起された問題をもとにグループに分かれて話し合い
- 3) 「いい地域づくりの活動だ」と判断するツールについて問題提起。
 - 考え方とツールの作成
 - 視点と基準など
- 4) 「視点と基準」などグループに分かれて話し合い。
- 5) 質疑と最後のまとめ

では、まずここで、地域づくりの活動ということを考えてみましょう

生活習慣の改善が必要な人や子育て中の人、あるいは高齢者や障害を持つ人など、地域に暮らすさまざまな課題を抱えた人たちへの関わりはどうあるべきなのでしょう。

本人や家族への関わりだけでは、さまざまな課題はなかなか解決できず、地域全体で取り組む必要性はますます高まっています。それは新型コロナウイルス対策においても同様です。

「地域全体で取り組む」とは、どうすることなのでしょう。また、誰が、誰に対して、どのような働きかけをすることで可能になるのでしょうか。

私たちは、「地域づくり」を目指した活動が必要という表現をします。

地域づくりを目指した活動をするためには、どうしたらいいのでしょうか。

でも、そもそも、「地域づくりを目指した活動」とは、どんな活動なのでしょう。

どんな要件を満たしていれば、それは「地域づくり」ということができるのでしょうか。

それが分かるためには、「地域づくりを目指した活動とはどんな進め方なのか」を知る必要があります。

そこで、「いい活動」をするために、どこかの事例を参考にしようと思っても・・・

私たちが、地域づくりを目指した活動をしたいと思います。参考にしたいので、どこかいい活動をしているところを紹介してください。

それなら、
あそこの活動がいいのではないのでしょうか！！

いやいや、あそこはだめだよ。こっちがいいよ！！

えーっ、そうかなあ……？

なぜこんなことが起こるのでしょうか。

地域づくりの活動という言葉や、そのために必要なこと、あるいはそのような活動をする際の問題点など、疑問に思ったり、これが大事ではないかと考えたりしたことはありませんか。

ここで、グループに分かれて、そんな経験や、いま抱えている悩み、このセミナーに参加した動機などを、グループごとに、簡単な自己紹介などもしながら、しばらく話し合ってみることにしましょう。

話し合いに25分ほど使うことにしましょう。

GW 1 25分 時間になったら自動で一堂に集まります。

○グループファシリテータ・書記の紹介

○自己紹介

- ・所属
- ・名前
- ・今までの経験、先ほどの話を聞いて思ったこと・感じたこと、など・・・

○「私たちの活動は地域づくりになっている？」

「いい活動をしている？」

についての現状はどうでしょう？？

さまざまな分野で地域づくり、地域おこし、まちづくりなど、さまざまな活動が進められています。健康、福祉の分野でも「地域づくり」を目指した活動がいろいろな地域で進められています。ただ、「地域づくり」の活動であるというためには、どのような内容であるべきか、どのような進め方であるべきかということが明確ではありません。

そこで、私たちは、「地域づくり的な活動」ってどんな活動なのかを考える場として、昨年8月“地域ものさし学習会”を立ち上げ、ひと月に一回のZOOMミーティングを重ねてきました。

学習会の目的は「地域づくりの言葉を定義する」、「地域づくり活動を構成する要素を定める」、「自分たちの活動の「地域づくり」の度合いを測定するための尺度を開発する(ものさしづくり)としました。そして、それを明確にして、どのような活動であれば、どのような要因が含まれていれば「地域づくり」といえるかを明確にしたいと思っています。

いまの段階では、仮に「地域づくり的な活動」としましょう

これは、今の段階では「地域づくりの健康、福祉づくり」「健康、福祉の地域づくり」ということの定義が明確に定まっていないためです。

眼前の課題に対して「地域全体で取り組む」という姿勢、あるいは、課題解決のために、行政や住民、専門家が、どのような状況を作り出すべきなのか、そのためにはどうすべきなのかなどという、それぞれの地域でのあり方を考え、それぞれの役割を果たすような姿勢を基盤とした進め方、あるいはそのような姿勢が醸成される活動を「地域づくり的な活動」と表しておくことにしましょう。

いい活動をしようということを考える際には、多くの人が、「なるほどそれはいい活動だ」と思えるような、あるいは「自分たちの活動がいい活動になっている」ということを判断するための道具(ものさし)が必要なのです。

ものさしを作るためには、どのような「視点」で、それがどうなっていたら「いい活動」といえるのかという「基準」を、まず考えておくことで、それが「いい活動」といえるかどうかを判断することができます。

つまり、ものさしを作るためには、「視点」と「基準」とが必要ということです。

「ものさし」とは…、視点とは…、基準とは…

次の例で考えてみましょう

さて、あなたはいま、ペットボトルに入った水を買おうとしています。どれがいいか分からないので店員さんに尋ねます。

あなた:このペットボトルはいいですか？

店員さん:えーっ？「いいですか」って？

あなたが、どのペットボトルの水を買おうかと迷ったとき、何を基準として選びますか。

ペットボトルの大きさ、中身の量、ラベルのデザイン、持ちやすさ……

視点と基準

ペットボトルの大きさはどうか？
 値段はどうか？
 中身の量はどうか？
 ラベルのデザインはどうか？

視点

「このことも考えて
 おいた方がいいの
 では」というときの
 「このこと」

「ペットボトルの大きさにはどん
 な種類があってどの程度が
 いいのか」「値段はどんな種類が
 あって、どの程度がいいのか」
 「中身の量はどんなのがあって、
 どの程度がいいのか」

基準

「このことがどうあれ
 ばよくて、どうあれば
 よくないか」というとき
 の「どうあれば」

あなたが、結婚相手を選ぶときの「視点」と「基準」について、
 考えてみましょう。

視点

「このことも考えておいた方がいいのでは」というとき
 の「このこと」

基準

「このこと」がどうあればよくて、どうあればよくないか
 の「どうあれば」

あなたは、どんな視点から、どんな基準をもとに、結婚相手
 を選びますか。

どんな「視点」や「基準」が考えられますか？

視点

「このことも考えておいた方がいいのでは」というときの「このこと」

収入 背の高さ 年齢 仕事 やさしさ

基準

「このこと」がどうあればよくて、どうあればよくないかの「どうあれば」

収入:いくらならベストでいくらなら許せない

背の高さ:なんセンチぐらいがベストで何センチなら許せない

年齢:何歳ぐらいがベストで何歳なら許せない

やさしさ、仕事:どんな方法で測る？

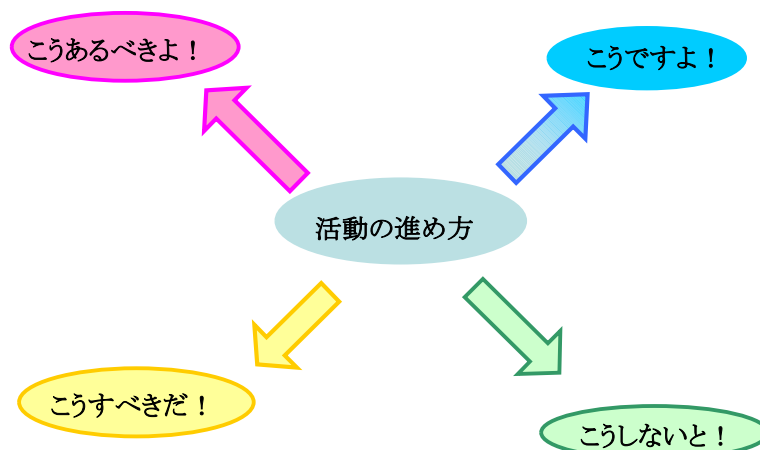
まだまだ、思いもつかない視点や基準があるでしょう

あなたが、自分の好みで結婚相手を選んだり、ペットボトルの水を買うのなら、自分の価値観で「視点」や「基準」を決めても、誰も文句は言いません。

しかし、審査員をおいて、いいペットボトルかどうかを判断しようとするときや、採用試験の面接などの場合は、どのような「視点」で、それがどうなっていたら「いい」と判断するかという基準を決めておく必要があります。

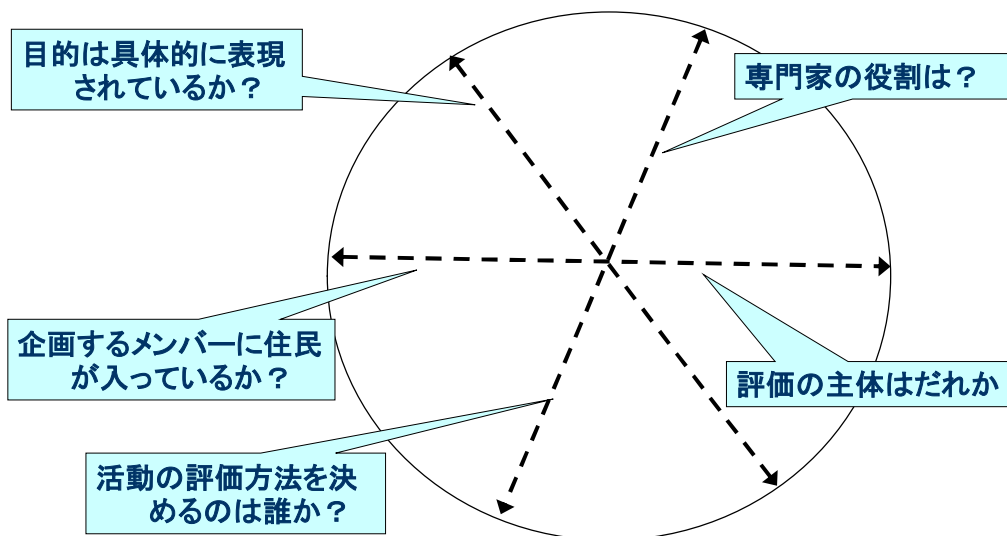
審査員に、「あなたの好きな視点から好きな基準で選んで、多数決で決めましょう」などというやり方では、「どんな基準で選んだんだ！！」と文句が出ることでしょ。

「いい活動」ということについて、それぞれの人の「視点」と「基準」が違っていると、「いい活動かどうか」の判定も異なってきます。



視点とは、いまの状況を測定する際の項目ともいえるかもしれません。

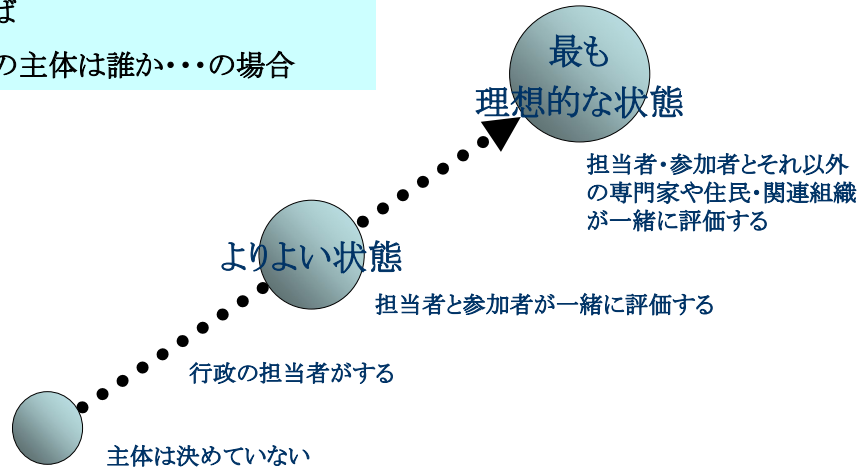
例えば・・・



各項目について、最も良い状態から、最も悪い状態を3～5つの**段階**にわけて設定していきます。

例えば

評価の主体は誰か・・・の場合



視点: どういうことを見るべきか(項目と表現することになります)

基準: どうあればいいのか(段階と表現することになります)

項目	詳細項目(質問)	1(よくない姿)	2	3	4(あるべき姿)
1	自分たちの地域の思春期の若者のリプロダクティブヘルス (ARH) のあり方について話題になっているか	話題になることはない。	時々話題になる。	いつも話題になる。	
2	自分たちの地域のARHの理想像を具体的に描くことができるか	理想像を考えている人は誰もいない。	理想像はあるが抽象的な概念にとどまっている。	具体的な理想像がある。	
3	上記のARHの理想像が文書化されているか	文書は何もない。	案ができてる。	委員会の議事録に書いてある。	文書に書いてあり、委員会および住民に公開されている。
4	委員会のメンバーのどのような人が上記のARHの理想像を説明できるか	1人だけ説明できる。	何人かのメンバーはわかっている。	メンバー全員がわかっている。	

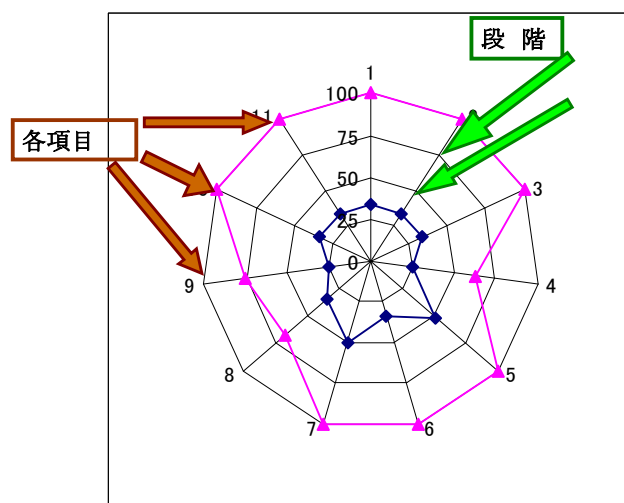
この表を「ものさし」と表現しています

「ものさし」があると・・・

- 1) 自分たちの、いまの進め方はいいのかを確かめることができる。
- 2) 今後どうすればいい活動になるかを検討することができる
- 3) そういう、いい活動になるためには、自分たちは何ができなければならないのかが見えるようになる。
- 4) 他の分野の人に、「自分たちは本来こうするべきと思っているが、いまはこうしかできていないので、いつまでにもっといい活動ができるようにしたい」「どういう条件があれば、もっといい活動になる」と明確にいうことができる。

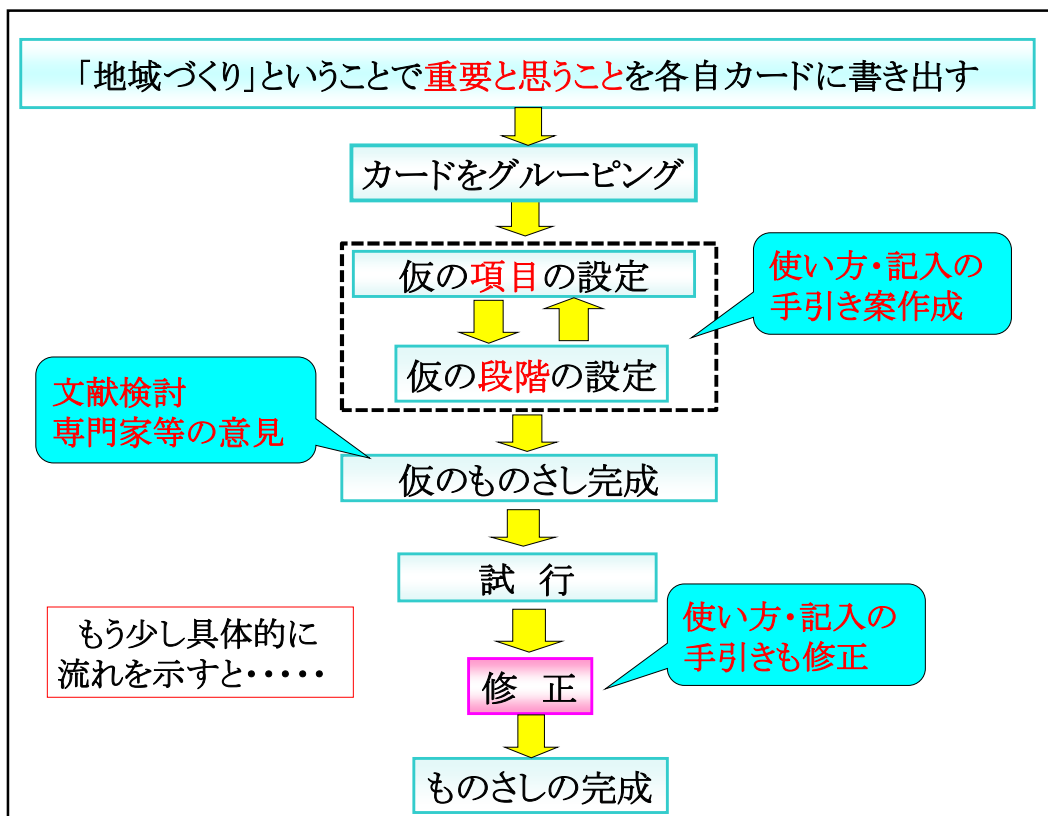
	項目	詳細項目(質問)	1(最下位)	2	3	4(あるべき姿)
1						
2						
3						
4						
5						
6						

レーダーチャートとして表すことができます



○一定期間時期をおいて測定すると、自分のやり方の変化を確認することができます。

○自分のやり方を、他の人につけてもらうことで、自分の思い込みや誤解を与えやすい点などを改善することができます。



ここまで、「自分たちの活動が、地域づくり的な活動になっているかどうか、ものさしのようなものを測定する意味や、ものさしを作る流れなどを説明してきました。

ここで、また、グループに分かれて、感想やわかりにくかったことなどを話し合ってみることにしましょう。

例えば、

- 「地域づくり的活動」と”的”をつけている意味
- 「地域づくりを目指している活動」をもの差しで測る意義
- もの差しのイメージ(視点、基準など)について
- などなど

その他、何でもけっこうです。グループごとに質問やご意見を交換してください。

GW 2

30分 時間になったら自動で一堂に集まります。

- 「いい地域づくりの活動だ」と判断するツールについて
 - ・ ツールについての考え方の意見
 - ・ 視点と基準での疑問点や考え

*全体会で報告をします。

- 本セミナーに参加しての感想や質問
 - ・ 質問への回答はニュースレターで行います。



「地域づくり」とは？ 定義の検討

- ① そこに起こっている健康、福祉に関連した事象を入り口（切り口、素材）として、その地域の構造を変革しようとする動き
- ② そこに起こっている健康、福祉に関連した事象を入り口（切り口、素材）として、当該事象の解決を目指しながら、その地域の社会構造の一部をある望ましい目標に近づけようとする動き
- ③ そこに起こっている健康、福祉に関連した事象を入り口（切り口、素材）として、その地域の社会構造の一部をその地域に合った望ましい姿に近づけることによって、当該事象の解決を目指そうというアプローチ

(注意) 社会構造の変化と当該事象の解決は、どちらが先という関係ではない。
相互に作用し合う関係である。

地域づくり活動の進み具合を測る物差しの項目群

- (1) 当該事象の解決を目指す活動の進み具合を測る項目群
- (2) 社会構造の一部が望ましい姿に近づく様子を測る項目群
- (3) 地域の社会構造の一部がその地域にあった望ましい姿に近づいた様子を測る項目群
- (4) 行政の力

- ・(1)と(2)は、定義に基づいた項目群
 - ・(3)と(4)は、意見交換の中から出てきた項目群
- 各項目群の名称や各項目群の内容は、まだ初期段階の案である。

- ① 行政指導で始まる活動を対象とする（事例：H市の子育て支援活動）。
- ② 活動の軸となる行事がある（事例：子育て中の親子と高齢者の月1回の交流会）。
- ③ 物差しによる評価の対象は活動全体。評価は行政と住民が一緒に行う。

物差しの項目 (1)と(2)の案

(1) 当該事象の解決を目指す活動の進み具合を測る項目群

- Q01. 軸となる活動(以下、活動)の開始時に、その目的は誰がどう決めたか
- Q02. 活動の目的は、関係者の間で共有されているか
- Q03. 活動の内容は、定期的に見直されているか
- Q04. 活動の参加者を募集する方法
- Q05. 活動の参加者数の動向
- Q06. 活動に対する参加者の満足度

(2) 社会構造の一部が望ましい姿に近づく様子を測る項目群

- Q07. 活動内容の企画への住民の参加
- Q08. 活動の運営への住民の参加
- Q09. 障害をもつ人、外国人などの参加への配慮
- Q17. 活動に参加する住民が活動の目的階層性について話し合う機会

物差しの項目 (3)と(4)の案

(3) 地域の社会構造の一部がその地域にあった望ましい姿に近づいた様子を測る項目群

- Q10. その活動は地域で知られているか
- Q13. 活動の様子を地域に十分伝えているか
- Q14. 活動を支える地域の動き（差入れ、回覧板での通知、会場の貸出し etc）
- Q15. 参加者の地域に対する愛着の高まり
- Q16. 行政の役割に関する住民の認識レベル

(4) 行政の力

- Q11. 上司と担当者の、“地域づくり活動”に関係した目的の階層性の理解
- Q12. 担当者の、参加者中心の活動にもってゆく力
- Q18. 活動に関する地域ニーズの測定の実施

○本セミナーに参加しての感想や質問

* 質問への回答はニュースレターで行います。




○グループ報告

まとめにかえて

今回、私たちは、「自分たちの活動の進め方が地域づくりといえるのか」ということを確かめるすべとして、「ものさし」と表現したツールを作成するという考え方と、「ものさしを作る方法」を提示しました。

この「ものさし」ができれば、自分たちの活動が地域づくりになっているかどうかを判定することができます。

皆さんもそれぞれの立場で、それぞれ地域活動などに関わっておられることと思います。

さまざまな健康教育活動、市民の自主的な活動、当事者主体の活動、専門職の技術向上のための活動などなど。

いずれにしても、自分たちの活動は、いい活動になっているか、確かめることは大切です。

例えば住民参加は？、当事者や市民の主体性は？、専門職の技術は向上しているか？、地域では健やかな暮らし、職域では健やかな職場は実現しているか？などなど。

この中には、「地域づくりの範疇に入ること」や独自に考えるべきことなどが含まれます。

この住民参加や当事者や市民の主体性、専門職の関わり方など、地域づくりと密接に関係していそうなことや、そのテーマだから必要なことなどがあるでしょう。

地域づくりを目指した活動や事業ごとの「ものさし」ができれば・・・

〇〇市糖尿病
の会の活動

〇〇町学校に行
けない子供たち
を支える会

平塚デコボコ

〇〇市高齢者総合
支援センターの活動

南足柄健康づく
り推進員活動

世田谷〇〇
会の活動

〇〇病院の
職員研修

〇〇地域難病
患者のための
〇〇事業

それぞれ違うものさしがで
きるでしょう。しかし・・・

ものさしを重ねて見ると、必須項目や共通項目が見えてくる

〇〇市糖尿病
の会の活動

平塚でこぼこ

〇〇病院の
職員研修

〇〇市高齢者総合
支援センターの活動

〇〇地域難病患者の
ための〇〇事業

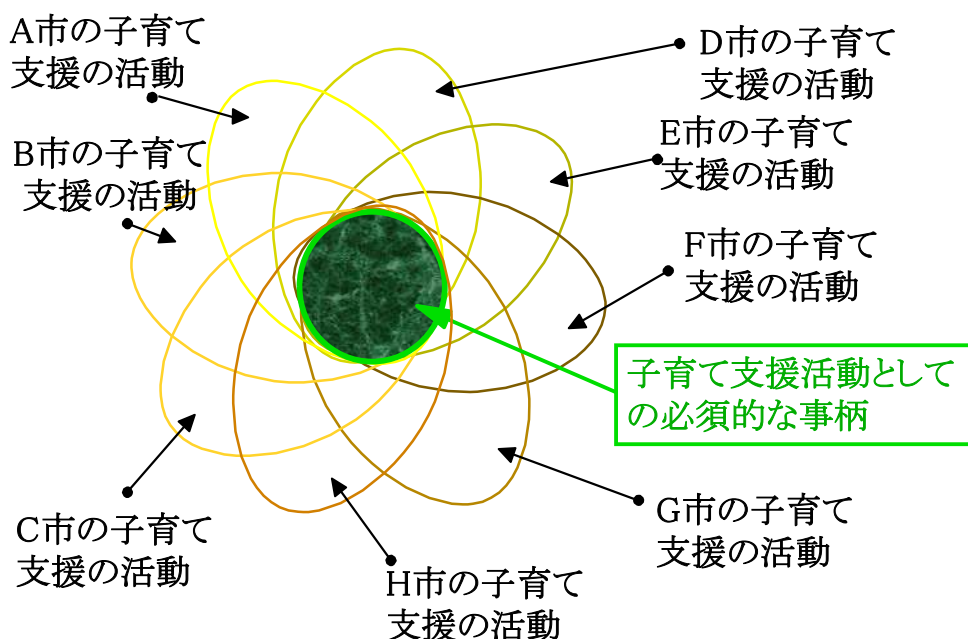
地域づくりとしての
必須的な事柄

南足柄健康づく
り推進員活動

世田谷〇〇会の活動

〇〇町学校に行けない子
供たちを支える会

ものさしを重ねて見ると、必須項目や共通項目が見えてくる



ということで・・・

- いま、私たちは「地域づくり」という観点で学習会を進めていますが、「リーダーシップ」や「住民参加」「地域組織のあり方」などについても、同じように、うまくやれているかどうかを測定することが可能です。
- ここで「うまく」ということが、どのような状態をいうのか、それを段階で表すのが、こんかい説明した「ものさし」ということであり、どのように段階分けするのかということをもいま私たちの学習会でも悩みどころになっています。

ということで・・・

- ・ 現在、私たちは平塚での活動をモデルとして学習会を進めています。本日出席いただいた皆さんの活動の場や背景は、それぞれ社会条件が異なるため、活動を進める人たちがそれぞれ自分達の活動を測る物差しを持つことが必要だろうとも考えています。

自分たちの事業について、自分たちなりの「ものさし」を自分たちで作成できるようになることを考えてみませんか。

本日は、私たちのセミナーにご参加いただきありがとうございました。

本日のセミナーを主催した学習会のメンバーは、今後、一歩ずつ、健康、福祉の地域づくりについて、考えていきたいと思えます。

ものさしづくりに興味、関心をお持ちの方、これから考え方や進め方などを一緒に考えてみませんか。

私たちも、まだまだ試行錯誤の段階です。

月に1回、リモートで集まりを持って、ものさし作成を検討しています。ぜひ！ご参加ください。